

早稲田大学 商学研究科  
修士課程 入試問題の訂正内容

<2020年度4月/9月 一般入学試験>

【専門科目】

●問題冊子5ページ :【設問7】 問9 冒頭

(誤)

問7で～

(正)

問8で～

以上

## 2020 年 4 月/9 月 大学院商学研究科 修士課程入学試験問題 専門科目

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙および解答用紙に触れないこと。
2. 問題用紙および解答用紙はそれぞれ別の用紙になっている。
3. 9 題のうち 2 題を選択すること。
4. 少なくとも 1 題は、自分の志望する研究指導の分野に最も近いと判断される問題を選択すること。
5. 専門科目の答案は二次試験の参考資料とするので、それを踏まえて問題を選択すること。
6. **試験開始の合図後**、解答用紙左上の指定された□内に選択した問題番号を、所定の欄に受験番号、氏名を次の数字記入例にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。また、所定の欄以外に受験番号および氏名を記入しないこと。

#### 【数字記入例】

正	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
誤	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
					4			7		9

7. 解答は、黒色または青色のインクのペンまたはボールペンを使用し、すべて解答用紙の所定の欄に**最大 1000 字程度**（グラフまたは図を用いる場合の文字数は含めない）で書くこと。消しゴムで文字を消すことができるインクのペンまたはボールペンは使用しないこと。
8. 解答用紙の裏面に記入してはならない。
9. 修正液または修正テープの使用は認める。
10. 筆記用具、修正液および修正テープは貸与しない。
11. 問題用紙および解答用紙は原則として取り替えない。

以 上

2020 年 4 月／9 月 大学院商学研究科

修士課程入学試験問題 専門科目

〔設問 1〕 経営専修 経営領域

以下の全ての問いに答えなさい。

1. 企業の合併買収において、買収企業がより大きな経済価値を創造できる理由をふたつあげ、それを説明せよ。
2. 企業の合併買収において、買収企業と被買収企業を統合する必要がある場合も存在するが、企業の組織文化の相違により統合が困難に陥る事例が少なくない。組織文化の概念を説明したうえで、組織文化の観点から統合が困難となる理由をひとつ説明せよ。
3. 企業の合併買収において、被買収企業の従業員が買収後に離職する事例が少なくない。なぜ被買収企業の従業員が離職を選択するのか。組織コミットメントの概念を説明したうえで、従業員の組織コミットメントの観点からその理由をひとつ説明せよ。

〔設問 2〕 マーケティング・国際ビジネス専修 マーケティング領域

次の設問に答えなさい。

企業が事業領域の構築を焦点として活用する可能性のあるマーケティング関連の複数の理論(研究成果)について詳述し、かつそれぞれの長所と限界を論述しなさい。

〔設問 3〕 マーケティング・国際ビジネス専修 国際ビジネス領域

以下の全ての問いに答えなさい。

1. 2020 年 1 月 1 日から 2020 年版のインコタームズが有効 (effective) になっている。2020 年版のインコタームズに盛り込まれている EXW について詳しく論じなさい。
2. 2020 年版のインコタームズに盛り込まれている DPU について詳しく論じなさい。

#### 〔設問 4〕 金融・保険専修 金融領域

以下(1)から(3)に述べられた意見は、(a)正しい、(b)間違っている、(c)どちらともいえない、のどれか。(a)から(c)のひとつを最初に明示し、その理由を説明しなさい。

(1) 日本やアメリカの株式市場では 1 月の投資収益率(リターン)が他の月に比べて高い傾向が観察され、“1 月効果(January Effect)”として知られている。効率的市場仮説が成立していれば、こうした情報は株価に反映され、特定の月に行う株式投資が他の月に行う投資に比べて有利という状況は解消されるはずである。1 月効果は何度も継続して観察されるため、効率的市場仮説が成立していないと判断するのが適切である。

(2) 成功確率が高い事業計画を持つ企業(タイプ A と呼ぶ)と、成功確率が低い事業計画を持つ企業(タイプ B と呼ぶ)が存在し、企業は自分のタイプがわかっているが、銀行は貸出先企業のタイプがわからないという情報非対称性がある経済を考える。“資金”という資源の利用効率性からタイプ A 企業には貸出が行われるのが望ましいこと、銀行は企業への貸出金利を決める交渉力をもつことを仮定する。このとき、貸出金利をどのように決めても損失をだすと期待(想定)されるため銀行は貸出を行わないケースがある。銀行が自分の利潤を追求する結果、社会的には重要な“資源配分の効率性”が達成できないケースである。これはモラルハザード問題と呼ぶのが適切である。ただし、複数の銀行が競争していることを前提とし、寡占による価格支配は問題としない。

(3) サブプライムローンという銀行貸出をもとにした証券化商品“RMBS”(それ自体が新しい証券)は、銀行貸出に対する返済・利払いを用いて、RMBS の購入者に利札(クーポン)や償還金を支払う。サブプライムローンの返済や利払いが滞る、ローンの担保であった住宅の価格が下落して担保を処分しても元本が回収できない、などのケースが多発すると、RMBS の購入者は利札や償還金を受け取れず RMBS 価格も下落する。実際、RMBS を購入した投資家は 2008/09 年の金融危機で巨額の損失を被った。しかし、もし RMBS を購入した投資家が分散投資を十分に行っていたならば、2008/09 の金融危機の際も巨額の損失を被ることはなかったはずで、RMBS の投資家が巨額の損失を被ったのはリスク分散が不十分であったと判断するのが適切である。なぜなら、価格変動リスクがある証券に投資する場合、様々な証券に分散投資するとそのリスクを小さくできることが知られているからである。

#### 〔設問 5〕 金融・保険専修 保険領域

巨大損害(大規模自然災害、大規模な感染症流行など)の場合においても保険給付を可能とするために、保険ではいかなる制度が利用されているかについて、複数の制度を挙げて、それぞれについて、その意義と限界を説明しなさい。

〔設問6〕 会計専修 財務会計領域

以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 監査人の役割をめぐる期待ギャップについて説明しなさい。

(2) 減損会計の手順について簡潔に説明しなさい。

(3) と (4) は以下の設例にもとづいて解答しなさい。

3月決算のX社は、2019年4月1日に機械を2,000千円で購入した。X社は減価償却を定額法によって行っており、この機械の耐用年数（経済的残存使用年数と等しいとみなす）は4年であり、残存価額は0円である。この機械は、単独で資産グループを構成している。この機械から生み出されるキャッシュ・フロー（すべて年度末に発生すると仮定する。）は購入時に以下のとおり見積もられ、その後も予想どおりに推移しており、各年度末における将来の見積もりにも変更はないものとする。なお、この機械の正味売却価額は、常に200千円である。

年 度	2019	2020	2021	2022
予想キャッシュ・フロー (単位：千円)	1,000	800	600	200

数値は、四捨五入により千円単位までを示すこと（計算途中で端数処理を行うかどうかは任意である）。

(3) 毎年度末に減損の兆候があったとすると、X社がこの機械について最初に減損損失を認識する年度は何年度かを示しなさい（解答の根拠となる計算過程を示すこと）。

(4) X社が最初に減損損失を認識する年度の、この機械に直接関連する仕訳をすべて示しなさい。なお、①割引率は年率10%であり、②重要性の原則の適用はないと仮定しなさい（解答の根拠となる計算過程を示すこと）。

## 〔設問7〕 会計専修 管理会計領域

オフィス街で平日の午前10時から午後2時30分まで営業している立食そば屋では、各営業日で、1時間あたり平均60人の顧客が来店するので、ソバの麺を240食分仕入れ、オーダーストップの午後2時までには商品を完売している。現在販売しているメニューと1食あたりの販売単価は、エビ天ぷらソバ（45円）、かき揚げ天ぷらソバ（40円）、月見ソバ（35円）、かけソバ（30円）である。各メニューとも大盛は提供していない。

直接材料費については、麺の仕入単価は5円であり、トッピングの具材については、エビ天ぷらの仕入単価が5円、かき揚げ天ぷらの仕入単価が4円、鶏卵の仕入単価が2円である。トッピングの具材は、各営業日で完売できる数量のみを仕入れ、トッピングの具材が売切れた時点でそのメニューの販売を終了している。

加工費については、ソバのツユをドンブリに注ぎ、釜で茹でた麺を入れてトッピングの具材をのせる作業で発生する費用（ツユの製造原価も含まれる）が1日あたり480円（固定費）である。加工費は、ソバを茹でる時間を直接作業時間とみなし、直接作業時間を配賦基準として配賦している。麺を茹でる釜はひとつだけであり、1食あたりのソバを茹でる時間は2分である。釜で同時に茹でることができる麺は4食分まで、段取時間および手待時間を考慮すると釜で麺を茹でられる時間は実質的に最大でソバ240食分である。

ここ数年、顧客から、うどんも食べたいという要望があり、この立食いそば屋はうどんをメニューに追加するかどうかを検討することにした。まず、1か月ほど顧客に対してアンケート調査を行った結果にもとづき、うどんの需要は1日あたり平均で30食であると結論づけた。ただし、麺を茹でる釜はひとつだけであり、釜で同時に茹でることができる麺は4食分まで、段取時間および手待時間を考慮すると釜で麺を茹でられる時間は実質的に最大でソバ240食分であるという状況に変化はない。1食あたりのうどんを茹でる時間は3分である。ソバの麺と同じ釜でうどんの麺を茹でるので、各営業日でうどんの販売数量を2食分増加すると、ソバの販売数量3食分を減じる必要がある。

うどんをメニューに加えた場合、メニューごとの販売単価はソバと同一額とする。直接材料費については、うどんの麺の仕入単価は4円であり、ツユとトッピングのエビ天ぷら・かき揚げ天ぷら・鶏卵はソバと同じものを使用することにする。

ツユをドンブリに注ぎ、茹でたうどんの麺を入れてトッピングの具材をのせる作業はソバと共通であるため、うどんの加工費は、ソバの加工費（固定費）として認識している1日あたりの480円に含められる。うどんの加工費は、うどんを茹でる時間を直接作

業時間とみなし、直接作業時間を配賦基準として配賦することになる。

以下の全ての問に答えなさい。なお、各営業日の閉店時間には材料、仕掛品および完成品の在庫は存在しないものとする。また、解答を書くときに問題文を書く必要はないが、解答の冒頭に、各問の番号を明記しなさい。

- 問1 かけそば1食あたりの限界利益を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問2 毎営業日かけそばのみ240食を販売しているとした場合（トッピングの具材は仕入れないと仮定する）、損益分岐点売上高を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問3 毎営業日かけそばのみ240食を販売しているとした場合（トッピングの具材は仕入れないと仮定する）、損益分岐点販売数量を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問4 ウドンをメニューに追加せずにそばのみの販売をする場合、直接作業時間1分あたりの加工費の配賦率を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問5 ウドンをメニューに追加せずにそばのみの販売をする場合、ある営業日の各メニューの販売数量が、エビ天ぷらそば80食、かき揚げ天ぷらそば100食、月見そば30食、かけそば30食であるとして、この日のメニューごとおよび全メニュー合計の売上総利益を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問6 ウドンをメニューに追加した場合、かけうどん1食あたりの限界利益を計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問7 ウドンをメニューに追加した場合、加工費を組間接費とした組別総合原価計算を適用できる。組間接費の配賦基準を直接作業時間とした場合、ある営業日でそば195食およびうどん30食を販売するとして、そば1食あたりおよびうどん1食あたりの組間接費の配賦額をそれぞれ計算しなさい（計算過程を示すこと）。
- 問8 ソバだけを240食販売する場合の1日あたりの売上総利益と、そば195食およびうどん30食を販売する場合の1日あたりの売上総利益について、差額を計算し（計算過程を示すこと）、うどんをメニューに追加したほうがよいか、メニューに追加しないほうがよいかについて検討し結論を述べなさい。
- 問9 問7で計算した売上総利益の差額について、特殊原価概念ではこの差額をどのような名称で呼ぶか。その名称を書きなさい。

【設問 8】 理論・計量専修／公共政策・経済史専修      ミクロ経済学領域

以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 企業の最適生産問題を考える。企業は 2 生産要素（労働  $L$  と資本  $K$ ）を雇用し、1 財 ( $Y$ ) を生産する。生産量は新古典派生産関数 ( $F(L, K)$ ):  $\partial F/\partial L > 0$ ,  $\partial^2 F/\partial L^2 < 0$ ,  $\partial F/\partial K > 0$ ,  $\partial^2 F/\partial K^2 < 0$  により表される。生産要素市場が完全競争の下、 $L$  と  $K$  の価格を  $w$  と  $r$  とする。総費用を所与 ( $C_0$ ) として生産最大化問題を設定し、最適解の条件の式を示しなさい。その際、最適点  $E(L_E, K_E)$  を図に明示して、簡単に説明しなさい。

(2) 前問と同じ企業の最適生産問題を考える。ただし、企業は一定量の資本 ( $K$ ) を保有して、1 財 ( $Y$ ) を労働 ( $L$ ) のみの費用を支払い生産する。その生産量は新古典派生産関数 ( $F(L, K)$ ):  $dF/dL > 0$ ,  $d^2F/dL^2 < 0$  により表される。生産物と労働の市場が完全競争の下、 $Y$  の価格を  $P_Y$ 、労働の価格（賃金）を  $w$  として利潤最大化問題を設定し、必要 (1 階) 条件と十分 (2 階) 条件を示しなさい。その際、標準化のため  $P_Y=1$  として、最適点  $E(L_E, P_Y Y_E)$  を図に明示して、簡単に説明しなさい。

(3) 前問と同じ問題を考える。生産関数が  $L^{1/2}$  となるときの十分条件を満たすことを示しなさい。更に、 $P_Y=1$ 、 $w=1/4$  のとき、最適労働量を計算しなさい。

(4) 問 2 と同じ企業の最適化問題を考える。ただし、企業は投資環境の改善により新たな投資を行い、資本の保有量が増加した ( $K' > K$ ) とする。問 2 と同様に利潤最大化問題を設定し、標準化のため  $P_Y=1$  として、その影響を図に明示して、簡単に説明しなさい。

(5) 問 2 の結果から、企業の労働需要と労働賃金との関係を表す労働需要曲線を図に描き、簡単に説明しなさい。そして、問 4 における資本量増加の労働需要に与える影響を同じ図に明示して、簡単に説明しなさい。



[設問9] 理論・計量専修／公共政策・経済史専修 マクロ経済学領域

以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 貨幣創造のモデルを考える。ハイパワード・マネー ( $H$ ) と貨幣供給量 ( $M_s$ ) を定義する式を書きなさい。それらの両式を基に  $M_s$  が  $H$  により創造される関係を表す式を、貨幣乗数を含む形で導出しなさい。なお、貨幣乗数は現金・預金比率 ( $\alpha > 0$ ) と預金 (支払) 準備率 ( $\beta > 0$ ) のパラメーターにより構成される。

(2) 貨幣需要 ( $M_D$ ) は取引動機と資産動機により、実質 GDP ( $Y$ ) と貨幣保有の機会費用としての利子率 ( $r$ ) の関数 ( $M_D = L(Y, r)$ ) で表される。 $Y$  が所与で、 $M_s$  が問1の式で表される場合、均衡点  $E(M_D, r_E)$  を図に明示した上で、貨幣市場の均衡について簡単に説明しなさい。更に、中央銀行が民間銀行から発行済み国債を買う (買いオペをする) 場合、その  $H$  に与える影響を同じ図に明示した上で、簡単に説明しなさい。

(3) 前問のような貨幣市場を前提とする短期のマクロモデルとして、IS-LMモデル (閉鎖混合経済) を考える。図に均衡点を明示した上で、均衡について簡単に説明しなさい。更に、同じ図に金融政策として  $Y$  を増加させる  $H$  の変化の影響を示しなさい。その際、この政策により最終的に  $Y$  が増加する過程、すなわち、上記の変数が投資 ( $I$ ) に影響を与え、どのように変化していくかについて、簡単に説明しなさい。

(4) 問1のモデルにおいて、長期間の大規模な量的緩和により、民間銀行の中央銀行口座に法定準備率を大幅に超えた資金が滞留している場合、中央銀行による準備率変更やオペレーションの影響を簡単に説明しなさい。更に、問3のモデルにおいて、このような2つの金融政策の影響を図に明示した上で、簡単に説明しなさい。

(5) 前問と同じ状況の場合、 $Y$  の増加を促す可能性の高い金融政策を2つ示しなさい。最近の日本銀行による政策を参考にして、簡単に説明しなさい。

—以上—



受験番号	
氏名	





受験番号	
氏名	

(問題番号)

(問題番号)